

【農業水利施設の魅力を知ってほしい(No.4) ;兵庫県武庫川流域の用水路を歩いてほしい(2023年8月)】

第4回は少し趣向を変えて、大都市近郊にある農業水利施設を紹介したい。場所(図1)は兵庫県の武庫川右岸(西宮市)、武庫川左岸(宝塚市、伊丹市、尼崎市)である。このエリアは大阪と神戸に挟まれた、いわゆる阪神地域で、かつては水田地帯であった場所もほとんどは宅地や商業用地、工業用地等に変わっている。しかし、わずかに水田地帯も残っており、農業水利施設も残っている。その結果、このエリアの住民等に多面的機能を提供しているといえる。



図1 武庫川を水源とする農業水利施設

1. 武庫川左岸

1-1. 昆陽井

昆陽井は主に兵庫県伊丹市が受益地となる用水路である。この用水路がいつ完成したかは定かでないが、1608年ころには存在していたようである。武庫川にある昆陽井堰（写真1）を水源とし、宝塚市と伊丹市の市境にあるゲート（写真2）から昆陽井として流下する。

昆陽井は伊丹市内を南東方向に流下し、昆陽寺付近（写真3）に至る。このあたりの用水路の雰囲気は大変良く、水路床に水草が繁茂し、生き物の存在を予感できる空間であった。その後流下方向を東に向け、四つ洽の分水工に至る。この先は用水路の水路幅も狭くなったり、暗渠となったりして、水路を追いかけることが困難になる。



写真1 昆陽井堰（兵庫県宝塚市）



写真2 昆陽井の始まり（兵庫県伊丹市）



写真3 昆陽寺付近（兵庫県伊丹市）



写真4 四つ洽の分水工（兵庫県伊丹市）

1-2. 生島井（六樋用水）

昆陽井堰の下流にある六樋井堰は、主に兵庫県尼崎市が受益地となる用水路である。元々独立して存在していた野間井、生島井、武庫井、水堂井、守部井、大島井を合口して完成した用水路である。合口事業は1928年に完成した。六樋井堰から取水した用水路は、最初の分水工（写真5）に至る。本稿では生島井をたどる。常松地区では常吉源太郎橋周辺水路修景整備によって用水路が親水整備（写真6）されている。さらに下る（写真7）と阪急武庫之荘駅近辺（写真8）に至る。この先は庄下川と名前を変えて大阪湾に至る。



写真5 六樋用水（兵庫県尼崎市）



写真6 常吉源太郎橋周辺水路修景整備



写真7 武庫之荘地区（兵庫県尼崎市）



写真8 阪急武庫之荘駅近辺
（兵庫県尼崎市）

2. 武庫川右岸・百間樋

百間樋は、主に兵庫県西宮市が受益地となる用水路である。今から約400年前の江戸時代初期は通水していたようである。百間樋は武庫川を水源とし、仁川をくぐった先に分水工がある(写真9)。ここから南下すると、やや水田が多い地帯(写真10)を通過する。その先、いくつか分水工(写真11、12)を通過し、瓦木中学校あたりから南は住宅地となり、水田はほとんどなくなる。



写真9 仁川をくぐった直後



写真10 西宮市段上町付近



写真11 西宮市上大市付近



写真12 あらきの森公園付近

3. まとめ

大阪市や神戸市のベッドタウンである兵庫県伊丹市、尼崎市、西宮市にも水田地帯が残っており、そこへのかんがい用水が今でも維持されている。親水整備されている箇所もあり、私も犬の散歩をしている人、ウォーキング、ランニングしている人、魚とりをしている子どもなどと遭遇している。近所に住んでいる方は、気持ち良く歩ける用水路なので、一度訪ねてほしい。

昆陽井を歩きたい方は、宝塚駅もしくは阪神杭瀬駅から阪神バスで総合福祉センター前下車すると写真 1, 2 にすぐアクセスできる。そこから写真 4 の四つ谷の分水工までおよそ 4km である。帰りは寺本東バス停から伊丹市営バスで阪急伊丹駅に行ける。

生島井を歩きたい方は、阪急武庫之荘駅から阪神バスで宮ノ北団地下車。六桶用水取り入れ口（写真 5 近傍）まで行ける。ここから阪急武庫之荘駅までおよそ 4.5km である。

百間樋を歩きたい方は、阪急仁川駅から写真 9 の分水工まで 1.5km の距離である。そこから写真 12 のあらかの森公園まで 2.5km の距離である。あらかの森公園から阪急西宮北口駅までは、近くの門前町バス停から阪急バスでアクセスできる。

【余談】

関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスの西側の端には、上ヶ原用水（写真 13）が通っている。この分水樋の比率は現在でも守られているようである。受益地となる水田はほとんどないが、水利慣行はずっと残る見本である。



写真 13 上ヶ原用水路